

## 北海道150年のキーパーソン 松浦武四郎とは？

### 北海道命名について

本道はかつて「蝦夷地」と呼ばれていましたが、1869(明治2)年7月17日に、松浦武四郎が「北加伊道」を含む6つの名前を候補とする意見書を明治政府へ提案し、その後8月15日に、太政官布告によって「北海道」と命名されました。

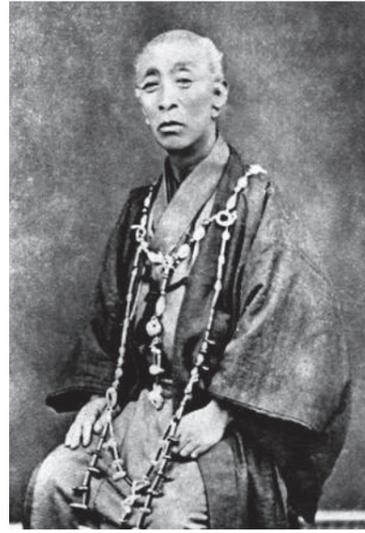
2018年、北海道はその命名から150年目の節目を迎えます。

武四郎が残した『天塩日誌』では、現在の音威子府村のあたりで、アイヌの古老から「カイ」という言葉には、「この地で生まれたもの」という意味がある」と教えられたとの記述があり、「北加伊道」の「加伊」にはこの意味が込められているといわれています。

### 「北海道」の名づけ親、松浦武四郎

松浦武四郎は、現在の三重県松阪市の出身で、生涯にわたって全国を歩き続け、探検家、作家、地理学者、出版者、古物収集家などとして幅広い分野で活躍しました。26歳のときに、ロシア南下に危機を感じて蝦夷地調査を決意。28歳から41歳にかけて全6回にわたり蝦夷地を調査し、その歩みは樺太や国後・択捉島にまで及びました。また、調査の際には、アイヌの人たちに案内をお願いし、寝食を共にするなどアイヌの文化に深く触れるとともに、その生活や文化を紹介するため、多くの記録を残しました。

2018年は、武四郎生誕200年として、生誕地である三重県や松阪市では、その功績を称える記念事業の実施が予定されています。



写真提供：松浦武四郎記念館

- |           |   |
|-----------|---|
| 1818      | 2月6日、松浦時春(桂介)の四男として誕生   |
| 1833(16歳) | 手紙を残して家を出る(江戸で見つかり1カ月半で連れ戻される)  |
| 1834(17歳) | 全国を巡る旅に出る   |
| 1843(26歳) | 蝦夷地調査を決意<br>郷里に戻って亡き両親の墓に参る   |
| 1844(27歳) | 伊勢神宮へ参拝の後、青森から蝦夷地を目指す、<br>松前藩の取り締まりが厳しく断念   |
| 1845(28歳) | 第1回蝦夷地調査(函館、森、有珠、室蘭、襟裳、釧路、厚岸、知床、根室などを巡る)  |
| 1846(29歳) | 第2回蝦夷地調査(江差、宗谷、樺太、紋別、知床、石狩、千歳などを巡る)   |
| 1849(32歳) | 第3回蝦夷地調査(函館から国後島、択捉島へ渡る)  |
| 1855(38歳) | 江戸幕府から蝦夷地御用御雇入の命を受ける  |
| 1856(39歳) | 第4回蝦夷地調査(函館、宗谷、樺太、根室、様似、有珠などを巡る)  |
| 1857(40歳) | 第5回蝦夷地調査(函館、石狩、上川、天塩などを巡る)  |
| 1858(41歳) | 第6回蝦夷地調査(函館、石狩、宗谷、北見、十勝、阿寒、日高などを巡る)   |
| 1868(51歳) | 明治政府から箱館府判府事を命じられる  |
| 1869(52歳) | 6月、明治政府から蝦夷開拓御用掛を命じられる<br>7月17日、明治政府へ蝦夷地に代わる名称として「北加伊道」を含む6案を提案<br>道名のほかにも、国名、郡名(地域を分ける名称)の選定にかかわる<br>8月、開拓判官を拝命<br>8月15日、太政官布告によって「北海道」と命名<br>叙従五位 |
| 1870(53歳) | 開拓判官を辞職 従五位を返上  |
| 1880(63歳) | 吉野から熊野までの霊場を巡る大峯奥駈修行を果たす  |
| 1881(64歳) | 関西、九州を巡る  |
| 1883(66歳) | 熊本、宮崎を周遊する  |
| 1887(70歳) | 東海、近畿、四国、山陽、九州を巡る<br>富士山を登頂   |
| 1888(71歳) | 叙従五位<br>2月10日、東京神田五軒町の自宅にて死去  |

※年齢は数え年

### いまに受け継がれる武四郎の功績



音威子府村の「北海道命名之地」碑(高橋はるみ知事揮毫)

『天塩日誌』に記された音威子府村 箆島地区には「北海道命名之地」という碑が建てられています。武四郎は、道内各地を訪れており、記念碑は、道内に50以上もあります。また、武四郎は、アイヌ語の地名などを参考にしながら、道内の多くの地名を名づけたことでも知られています。武四郎が提案した地名には、「日高」「石狩」「十勝」など振興局の名称、「札幌」「雨竜」「留萌」「斜里」など市町村の名称となっているものがたくさんあります。

# みんなで作る 北海道150年事業

— 参画・協力をお願いします —

未来へつなぐ、みんなでつなぐ。  
2018年、北海道は命名150年。

北海道150年事業は、道民の皆さんが企画・実施する事業が主役。  
ぜひ、ご参加とご協力をお願いします。

サポーター・スポンサー・パートナー を募集します。  
(個人の寄附・ボランティア) (企業等の寄附・協賛) (企業等の事業企画・実施)

開拓使蔵板

北海道国郡全図(北海道博物館所蔵)

お問い合わせ・相談窓口

北海道150年事業実行委員会事務局(北海道総合政策部政策局 北海道150年事業室)  
TEL 011-204-5995(ダイヤルイン) 土日・祝日を除く9時~17時  
E-mail hkd.150th@pref.hokkaido.lg.jp

北海道150年事業について詳しくは  
北海道150年 検索



その先の、道へ。北海道  
Hokkaido. Expanding Horizons.

# 北海道150年を、みんなで盛り上げましょう！

北海道150年事業は、本道の歴史や文化などの魅力を再認識し、道内外に発信していく取り組みです。幅広い分野からのご意見を取り入れながら、道民参加型の記念事業として進めていきます。



## 北海道150年事業の考え方

### 基本理念

縄文文化やアイヌ文化をはじめとする本道独自の歴史や文化、国内外に誇る豊かな自然環境は、かけがえのない道民の精神的豊かさの源です。本道が「北海道」と命名されてから150年目となる2018(平成30)年を節目と捉え、積み重ねてきた歴史や先人の偉業を振り返り、感謝し、道民・企業・団体など一体となってマイルストーン(節目の年)として祝うとともに、未来を展望しながら、互いを認め合う共生の社会を目指して、次の50年に向けた北海道づくりに継承していきます。

また、道民一人ひとりが、新しい北海道を自分たちの力で創っていく気概を持ち、北海道の新しい価値、誇るべき価値を共有し、国内外に発信することにより、文化や経済など様々な交流を広げていきます。

### テーマ

- 北海道151年目の新たな一歩を踏み出す
- 先人から受け継いだ財産を次の世代につなぐ
- “Hokkaido”の多様な魅力を世界に広げる

### 基本姿勢

- 未来志向** 「世界の中の北海道」の視点で未来の姿を見据えます。
- 価値創造** 北海道の可能性を見つめ直し、新しい価値をつくります。
- 道民一体** 北海道を愛する多くの皆さんの参加により、北の大地北海道を盛り上げます。

## 北海道150年事業の構成

北海道150年事業は、実行委員会が実施する「記念セレモニー」と、道民や関係団体、民間企業が実施する「北海道みらい事業」で構成されます。実施は2018年1～12月、北海道を中心に道外、国外でも展開していく予定です。



### 北海道150年事業

#### 実行委員会が実施

#### 記念セレモニー

北海道150年を象徴する式典や関連する企画等をプロジェクトチーム方式で実施



#### 北海道みらい事業の支援

- クラウドファンディング活用に関する支援
- 道の交付金による支援

#### 事業全体のPR

道民に事業を知ってもらうため  
さまざまなコンテンツや手法でPR

#### 道民、関係団体、民間企業、市町村、振興局等が実施

#### 北海道みらい事業

北海道150年事業基本方針を踏まえてさまざまな主体が実施する個別事業



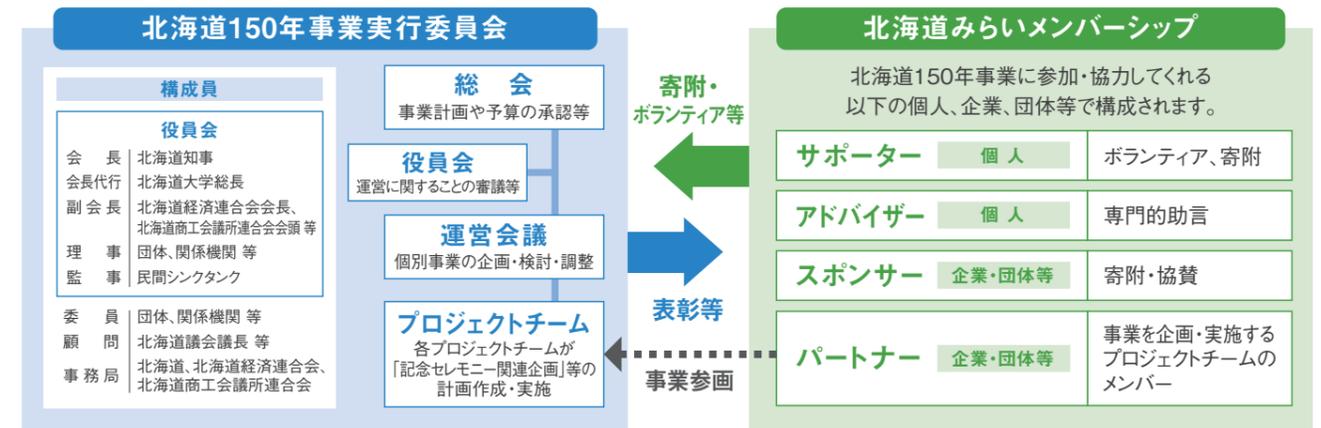
#### 道などが実施

#### 関連推進施策

北海道150年を契機に、継続的に取り組む施策や個別事業

## 推進体制

2016年11月に、84の団体・関係機関などで構成する「北海道150年事業実行委員会」を設立。事業ごとにプロジェクトチームをつくり、民間企業や団体等の支援や協力を得ながら、各事業を推進していきます。



## 事業参画のお願い

北海道150年事業を構成する二つの事業について、企画・実施する皆さんの登録申請をお願いします。

### 記念セレモニー

企業や団体等が個々の事業を提案し、プロジェクトチームをつくり、パートナーとして事業を実施。事業は実行委員会事業の記念セレモニー関連企画として位置づけます。

- パートナーの募集期間 : 2017年1～9月頃
- 記念セレモニーの実施期間 : 2018年夏頃

#### 事業例

- 記念式典(道が中心となって実施)
- アイヌ音楽や舞踊の披露
- 歴史から未来を学ぶシリーズフォーラム
- 北海道の偉人の選定、表彰等

### 北海道みらい事業

北海道150年事業の主役となる事業として、道民の皆さんや地域の視点を生かし、さまざまな主体(道民、企業、団体、市町村等)が道内外で企画・実施する多様な事業です。

- みらい事業の登録募集 : 2017年4～9月頃(1次募集)
- みらい事業の実施期間 : 2018年1～12月

#### 事業例

- 松浦武四郎関連事業
- 文化・芸術等の発信事業
- スポーツイベントとの連携事業
- 北海道の未来を担う新しい技術の活用
- 国際交流関連事業
- 地域の歴史に関する子ども向け資料作成事業
- 開拓期の歴史情報発信事業等

## 寄附・協賛のお願い

■ 募集期間: ~2018年12月

北海道の歴史的な一幕となる記念事業について、実行委員会への寄附や道のふるさと納税制度を通じ、スポンサーやサポーターとして、ご支援・ご協力くださいますようお願いいたします。お寄せいただいたご寄附は、記念セレモニーや事業PR等に活用させていただきます。ご寄附をいただいた皆さまのお名前などは、記録誌やホームページで公表します(希望者のみ)。また、金額に応じて特典を進呈します。

### 事業スケジュール

項目	2017年	2018年	2019年～
記念セレモニー	記念セレモニー関連企画/パートナーの募集 1～9月頃	記念式典 夏頃 キックオフイベント 1～3月 記念セレモニー関連企画 1～12月	
北海道みらい事業	事業の登録募集 4～9月頃	1～12月	
関連推進施策		1～12月	(終期は事業により異なる)
北海道みらい事業の支援	PR等の支援 4月～	各種支援 1～12月	
事業全体のPR	本格開始 4月～2018年12月 応援企画 4～12月	強化期間 10～3月	
北海道みらいメンバーシップ	サポーター・スポンサー 募集、寄附 1月～2018年12月 調整・協議、募集 1～9月	事業参画 4月～2018年12月	